

職員全体勉強会

日 時: 2026年8月19日(水) 13:15~14:00 講 師: 木下景太先生

褥瘡対策と

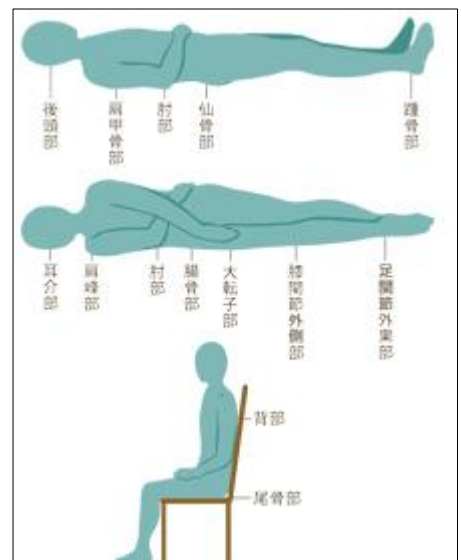
脆弱骨折患者に対する二次骨折予防



今月のテーマの「褥瘡対策」では、褥瘡が発生する要因や対策（日常のケア、治療法）について、「骨折予防」では、要支援・要介護者別にみた介護が必要となった主な原因に、骨折・転倒が増加していることを知り、そのための予防対策やケアする上での大切なポイントを学ぶ機会となりました。

褥瘡の好発部位

1. 褥瘡対策



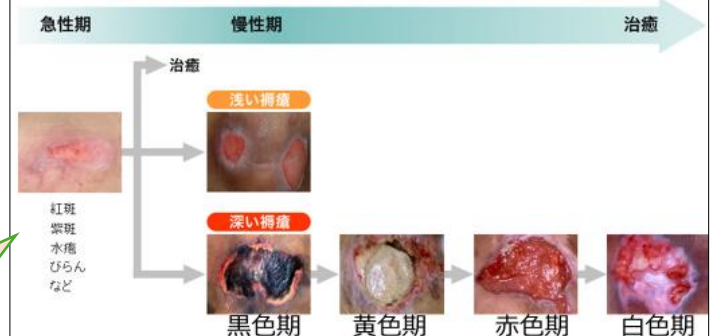
褥瘡の予防方法

- ①体位変換・ポジショニング
- ②褥瘡予防用具を使用して除圧（エアマットレスやクッション）
- ③皮膚摩擦やズレを防ぐ
- ④身体の清潔保持
- ⑤栄養を十分にとる



褥瘡治癒過程での観察や使用薬剤、処置の方法等知識を得ることが重要

褥瘡治癒過程

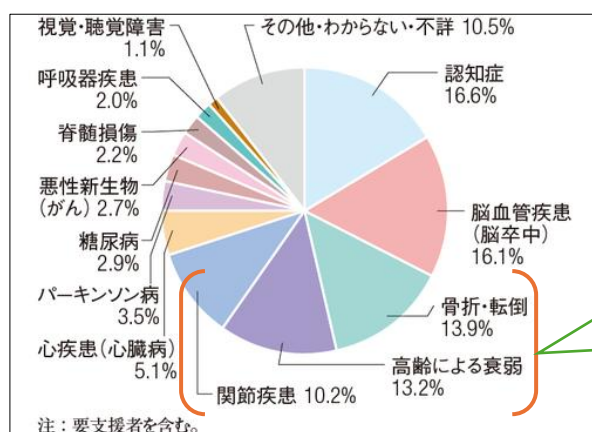


2. 脆弱骨折患者に対する二次骨折予防

骨粗鬆症は、加齢や閉経により骨の強度が低下し骨折しやすくなる病気です。特に女性に多く、骨折によって、介護が必要となる可能性も高く、医療費もかかることがあります。また、一度骨折すると再度骨折リスクは極めて高くなります。

高齢者にとって、骨折が寝たきりになる可能性があることを念頭において、二次骨折予防をするための取り組みが重要です。

介護が必要となった原因の構成割合



骨折をしたことがある人の次の骨折リスク



介護が必要となった原因では、運動器の機能低下の割合が増加、また、要支援者では上位3位までを占めている

要支援者・要介護者別にみた介護が必要となった主な原因

	第1位		第2位		第3位	
要支援者	関節疾患	19.3%	高齢による衰弱	17.4%	骨折・転倒	16.1%
要介護者	認知症	23.6%	脳血管疾患(脳卒中)	19.0%	骨折・転倒	13.0%

<厚生労働省「国民生活基礎調査」/2022年(令和4年)>

私たち医療者は、要介護高齢者の患者の日常のケアやわずかな動作で起こしてしまう「**介護骨折**」に注意が必要です。関節の拘縮で、可動域が狭くなっている患者さんのおむつ交換や体位変換・着替えなどの日常的な介助時、わずかな力で折れてしまうことがあります

予防するには、環境を整備し、身体機能と生活習慣のケア(運動療法、食事療法)を理解し、安心と安全に生活できるように知識と技術を身につけていきましょう!

